

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（4月－6月、以下「当第1四半期」）の概況

売上高は5,748百万円（前年同期比72.8%減）、営業損失3,829百万円（前年同期は営業利益283百万円）、経常損失3,759百万円（同 経常利益574百万円）、四半期純損失2,290百万円（同 四半期純利益342百万円）となりました。

業績変動の主因は、下記の通りです。

パチンコ・パチスロ遊技機の販売において、当上半期は前上半期と比較して第2四半期に商品ラインアップが集中しており、複数の有力タイトルを第2四半期に販売する予定となっています。

このため当第1四半期の総販売台数が前年同期と比較して減少し、上述の経営成績となりました。

当第1四半期の主な事業の取り組みは、下記の通りです。

当社グループは、キャラクターをはじめとしたIP（知的財産）を主軸に置いて、取得・保有・創出したIPの価値を最大化することで、中長期の視点に立った持続的な成長を目指しています。

この実現に向けて、現在、コミックス、アニメーション、映画/テレビ、ゲーム事業などのインタラクティブ・メディア、コンシューマプロダクツ、パチンコ・パチスロの6分野において、IPの価値向上を推進するとともに、各分野が連携してIPの育成・事業化に取り組んでいます。

『銀河機攻隊 マジェスティックプリンス』は、コミック誌と連動して、平成25年4月にテレビアニメの放送を開始し、同IPを活用した商品やサービスの企画開発を進めました。また、ウルトラマンシリーズは、平成25年7月にテレビシリーズ最新作『ウルトラマンギンガ』の放送を開始すると同時に、パートナー企業と連携し、同IPを活用したグッズ展開を進めました。

パチンコ・パチスロ遊技機の販売は、総販売台数が約18,000台（前年同期比 約46,000台減）となりましたが、第2四半期には平成25年7月に販売開始したパチンコ『CRエヴァンゲリオン8』をはじめ、複数の有力タイトルを市場に投入する予定です。

（注）本文に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、34,641百万円と前連結会計年度末比38,068百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少によるものです。

有形固定資産は、11,588百万円と前連結会計年度末比437百万円の増加となりました。これは支店の新設用地取得によるものです。

無形固定資産は、4,546百万円と前連結会計年度末比5百万円の増加となりました。

投資その他の資産は、18,345百万円と前連結会計年度末比119百万円の増加となりました。これは主に投資有価証券の増加によるものです。

以上の結果、資産の部は69,122百万円と前連結会計年度末比37,505百万円の減少となりました。

(負債)

流動負債は、12,654百万円と前連結会計年度末比34,711百万円の減少となりました。これは主に仕入債務の減少及び未払法人税等の減少によるものです。

固定負債は、4,214百万円と前連結会計年度末比50百万円の増加となりました。

以上の結果、負債の部は16,868百万円と前連結会計年度末比34,660百万円の減少となりました。

(純資産)

純資産の部は、52,253百万円と前連結会計年度末比2,844百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ11,690百万円減少し、11,618百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、9,351百万円（前年同期は7,719百万円の支出）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失3,762百万円、仕入債務の減少31,349百万円、売上債権の減少30,710百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1,093百万円（前年同期は1,438百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出729百万円、無形固定資産の取得による支出346百万円、貸付けによる支出130百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,245百万円（前年同期は1,065百万円の支出）となりました。これは主に配当金の支払779百万円、社債の償還による支出300百万円等によるものです。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。